リムパーザ®＋アバスチン®

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

点滴時間：30分

使用する薬	外観	点滴時間
アバスチン® 15mg/kg		30分

- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ 内服薬

お薬の名前	飲み方、スケジュール
リムパーザ®錠 150mg	1回 150mg、 2 錠 1日2回　朝・夕食後 連日内服
 100mg	

◆ スケジュール

21日間を1コースとして、以下の治療を繰り返します。

アバスチン®：1日目に点滴

リムパーザ®　21日間（連日）内服

1コース：21日間

◆ コース数

アバスチン®は計22コース行います。

◆ 飲むときの注意

- 医師より特別に指示がなければ、1日目の夕分から開始します。薬局から薬が受け取れない場合などは、2日目の朝分から開始します。
- この薬は、患者さん毎に投与量が決められています。処方された用法用量、スケジュールを必ず守ってください。

◆ 飲み忘れたとき

- 飲み忘れに気付いた時間がいつもの服用時間の2時間以内であれば、服用できなかった錠剤を服用してください。
- 2時間を超えた場合は、服用できなかった錠剤は服用せず、次のタイミングから通常のスケジュールどおりに再開し、決して2回分を飲まないでください。

◆ 過剰に飲んでしまったとき、間違えたとき

- 多く飲んでしまった、スケジュールを間違えた場合などは、すぐに病院へご連絡ください。

◆ 飲み合わせについて

- リムパーザ®は、併用に注意する薬や飲食物があります。薬局やドラッグストアで購入した薬も含め、担当の医師や薬剤師に飲み合わせを確認してもらいましょう。

◆ 治療日誌について

- 副作用の症状を把握したり飲み忘れがないように、治療日誌をつけましょう。

◆ 薬の名前について

- このパンフレットには、当院で使用しているお薬の名前が書かれています。調剤薬局で受け取ったお薬の名前と異なる場合があるため、お薬の名前を薬局でご確認ください。

◆ 主な副作用

白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。
治療開始１週間～3か月頃に減少することが多いですが、それ以降に起こることもあります。
うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。
37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。
治療開始１週間～3か月頃に減少することが多いですが、それ以降に起こることもあります。
必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。
治療開始１週間～3か月頃に減少することが多いですが、それ以降に起こることもあります。
転倒やケガに注意してください。
必要に応じて、輸血することがあります。

【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使用することがあります。水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、下痢止めを使用することがあります。
強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出ることがあります。

◆ 検査でわかる副作用

高血圧

血圧が高くなることがあるため、自宅で定期的に血圧を測定し記録し、診察時に医師に記録を見せましょう。
血圧を下げる薬を使用することがあります。
自宅での血圧が180/120mmHgを超える、頭痛や胸の痛みなどの他の症状を伴うときは、病院へご連絡ください。

タンパク尿

尿にタンパクが出ることがあるため、定期的な尿検査を行います。

◆ その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

血栓塞栓症（血のかたまりが脳、心臓、肺などの血管につまる）

手足に力が入らない、ろれつが回らない、めまい、しめつけられるような胸痛、息苦しい、片方の足に急激な痛みや腫れがある

出血

青あざができる、鼻血、歯茎から出血しやすいなどの症状が出ることがあります。

血痰がある、下血がある

消化管穿孔

今までに経験のないひどい腹痛

◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない　　　　　など

診察券を用意する

↓

代表：044-977-8111　に電話をかける

平日：8:30-17:00 土曜日：8:30-12:30 **腫瘍センター ナースステーション**	夜間帯・休診日 など左記以外の時間 **各診療科の当直医**

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関を入って右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30　土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師